

地震調査研究推進本部政策委員会調査観測計画部会
第1回活断層を対象とした重点的調査観測手法等検討専門委員会
議事要旨

1. 日時 平成16年1月16日(木) 13時30分～16時30分
2. 場所 文部科学省ビル 10F2会議室
東京都千代田区丸ノ内2-5-1
3. 議題
 - 1) 本専門委員会設置の経緯及び運営について
 - 2) 今後の審議の進め方について
 - ・ 基盤的調査観測の今後のあり方について
 - ・ 重点調査観測のあり方について
 - 3) その他
4. 配付資料
 - 計活1-1 重点的調査観測の手法検討について
 - 計活1-2 活断層を対象とした重点的調査観測手法等検討専門委員会における審議事項(案)
 - 計活1-3 地震関係基礎調査交付金について
 - 計活1 参考資料1 活断層を対象とした重点的調査観測手法等検討専門委員会の設置に関する資料
 - 計活1 参考資料2 地震に関する調査観測計画についての資料集
 - 計活1 参考資料3 地震関係基礎調査交付金による活断層調査に関する参考資料
 - 計活1 参考資料4 活断層の評価に関する参考資料
 - 計活1 参考資料5 地震動予測地図についての参考資料
5. 出席者

主査	平田 直	東京大学地震研究所教授
委員	飯尾 能久	京都大学防災研究所助教授
	伊藤 谷生	千葉大学理学部教授
	今泉 俊文	東北大学大学院理学研究科教授
	岩崎 貴哉	東京大学地震研究所教授
	岩田 知孝	京都大学防災研究所助手
	笠原 敬司	独立行政法人防災科学技術研究所 防災研究情報センター長
	瀧 一起	東京大学地震研究所助教授
	鷲谷 威	名古屋大学大学院環境学研究科助教授
	佐藤比呂志	東京大学地震研究所助教授
	杉山 正憲	国土地理院地理調査部防災地理課長
	杉山 雄一	独立行政法人産業技術総合研究所 活断層研究センター長
	東郷 正美	法政大学社会学部教授

	中田 高	広島大学大学院文学研究科教授
	長屋 好治	海上保安庁海洋情報部技術・国際課地震調査官
	干場 充之	気象庁地震火山部地震予知情報課課長補佐
	本蔵 義守	東京工業大学大学院理工学研究科教授
	翠川 三郎	東京工業大学大学院総合理工学研究科教授
	印の委員は、専門委員委嘱手続き中のため、専門家として出席	
オブザーバ	宮崎 清博	国土地理院測地観測センター専門調査官
	中澤 博志	気象庁地震火山部管理課地震調査連絡係長
	鎌谷 紀子	気象庁地震火山部地震予知情報課活断層情報係長
	桑原 保人	独立行政法人産業技術総合研究所地球科学情報研究部門 地震発生過程研究グループ長
事務局	田中 孝紀	財団法人地震予知総合研究振興会企画部長
	谷口 薫	財団法人地震予知総合研究振興会企画部研究員
	磯谷 桂介	文部科学省研究開発局地震・防災研究課長
	前田 憲二	文部科学省研究開発局地震・防災研究課地震調査管理官
	鎌田 高造	文部科学省研究開発局地震・防災研究課地震調査研究企画官
	岡本 拓也	文部科学省研究開発局地震・防災研究課課長補佐
	大城 功	文部科学省研究開発局地震・防災研究課地震火山調査官
	田中 宏明	文部科学省研究開発局地震・防災研究課防災科学技術推進室室長補佐
	下川 浩一	文部科学省研究開発局地震・防災研究課専門調査官
	明田川 保	文部科学省研究開発局地震・防災研究課地震調査官
	青木 重樹	文部科学省研究開発局地震・防災研究課地震調査官
	岡崎 和彦	文部科学省研究開発局地震・防災研究課調査員
	三浦健一郎	文部科学省研究開発局地震・防災研究課調査員
	佐野 幸一	文部科学省研究開発局地震・防災研究課企画調整係長
	小清水 寛	文部科学省研究開発局地震・防災研究課本部係長
	緒方 誠	文部科学省研究開発局地震・防災研究課専門職
	梅田 裕介	文部科学省研究開発局地震・防災研究課企画調整係員
	田村 俊子	文部科学省研究開発局地震・防災研究課事務補佐員

6. 議事要旨

- (1) 本専門委員会の運営について、主査代行（副主査）を今泉委員とすること、議事録や配布資料が情報公開の対象となることなどが承認された。
- (2) 本専門委員会設置の経緯と背景について事務局から説明があり、了承された。
 - ・ 「計活1-1」に基づき、本専門委員会が政策委員会からの指示で調査観測計画部会にて検討することとなり、「活断層を対象とした調査観測の実施内容等」について検討するために設置された旨、事務局から説明があった。また、「計活1-3」に基づき地震関係基礎調査交付金についての説明があった。
 - ・ 重点的調査観測の基本的な考え方、手法の検討、検討のスケジュールについても事務局から説明があった。今年度夏頃を目処に、主に基盤的調査観測についての中間報告を、来年度に重点的調査観測も含めた報告をまとめる方向で審議を進めていくことを確認した。
- (3) 本専門委員会設置での議事の進め方の考え方について事務局から説明があり、了承された。
 - ・ 「計活1-2」に基づき、今後、本専門委員会で審議していく事項（案）について、事務局から説明があった。
- (4) 基盤的調査観測の今後のあり方について議論した。
 - ・ 「計活1-2」及び参考資料を適宜使用しながら、基盤的調査観測の今後のあり方について、自由討論形式で議論した。主に以下のような意見があり、これらの意見をもとに、事務局で資料を用意し、第2回以降の審議を進めていくこととなった。
基盤調査の追加（2巡目）と重点観測との線引きを明確にしておくべき。

試算では基盤調査の追加（2巡目）は20-30を考えている（主要98断層で20、新たに6-7）。

基盤の2巡目で行うより、重点で集中的に行うように割り切る考え方もある。

実際に調査評価をしていく際にデータがそろっていないので苦労している。

どのくらいの情報（データ）の調査結果がどのような評価につながっているのか、具体例でレビューした上で審議すべきだ。

あと少し調査すればわかるものとある程度投資してもダメなものの選別が必要。

（5）重点的調査観測のあり方について議論した。

- ・ 「計活1-2」及び参考資料を適宜使用しながら、重点的調査観測のあり方について、自由討論形式で議論した。主に以下のような意見があり、これらの意見をもとに、事務局で資料を用意し、今後の審議を進めていくこととなった。

パイロット重点や振興調整費で行ってきた事業をつなげていくか検討すべき。

今できる手法を組み合わせて行うことで見えてきている事項もある。

社会貢献度と新規手法テストのさじ加減をどうするか要検討事項だ。

（以上）